

<令和3年度・やまなみ工房 まとめ>

1) やまなみ工房の一年

やまなみ工房は現在（令和4年3月31日）障害者多機能型事業所定員60名（就労継続支援B型・定員20名、生活介護・定員40名）として89名の利用者が在籍している。年度途中に高齢による退所者1名、圏域の事業所より併用利用による入所者1名があり、令和4年度においては新たに2名の利用希望者の受け入れが決定している。

令和3年度における利用者89名の事業別内訳においては現在就労B型に32名、生活介護に57名が在籍し3つの活動班に分かれ、それぞれの特性やニーズに分かれ安定した活動を行った。出勤率においては年間1日当たりの利用者数が平均70名となり、今年度については問題なく運営を行えたが、制度上現行の定員数では今後の受け入れが非常に困難な状況となり令和4年度においては更に定員拡大をしなければ新規利用者の受け入れが出来ない状況にある。

89名の利用者においては今年度においても、常に全体の連絡・調整を円滑に行い、利用者とその家族の実態に適した包括的な支援の向上と利用者の健康と安全を第一に、一人ひとりの意思及び人格を尊重し、安心できる時間と空間の中で「明るく・温かく・楽しく」生活ができるよう創意工夫を凝らし、心身ともに豊かな人間性溢れる支援、個々の立場に立った適切な支援と就労保障を行った。

特に障害者施設では、感染症がひとたび発生すると集団発生となる例も多く、入所者も重症化するリスクが高い方も多いことから、日頃からの感染対策や施設体制の整備に取り組む必要があり、当施設においてもコロナ感染予防対策委員会を設置し、常に感染拡大の防止策に努めた。しかし結果的に2度にわたるクラスターが発生することとなり、累計23名の感染者が発生する事態となった。

感染が判明したあと、施設では滋賀県、甲賀市、甲賀保健所をはじめ各関係団体から適時報告と指導を仰ぎながら感染拡大の防止策を進め、感染者の早期発見、早期隔離、行動歴調査による接触者や感染源の検査、保健所の統合ネットワークによる情報の集約・分析を行いながら、感染拡大防止を図り、利用者そしてご家族の命を守るべく体制の整備などに全力で取り組み、定期的な抗原検査はもちろん、滋賀県の「新型コロナウイルス感染症イベントベースサーベイランス事業」を利用し全職員と濃厚接触該当利用者計422人を対象にPCR検査を実施した。

またご家庭に協力を求め生活面においても様々な対応を行った。具体的には感染拡大防止対策実施期間を設け家庭通信や家庭訪問、電話対応において、感染拡大予防策の徹底(手指・環境設備消毒)、健康観察の徹底(発熱・咳・鼻水・喉の痛み・倦怠感・その他 行動変容観察など)の注意喚起及び確認や現状報告の他、一般的な予防策はもちろん感染リスクが高いとされた歯磨き等の支援や一部古紙回収やメンテナンスをはじめとした授産活動の制限、

休日においても職員利用者に対する行動制限を設けるなど関係者全体で対策を進めた。

また一部の利用者は健康被害を回避するため自ら長期にわたり自宅待機を余儀なくされるケースも少なくなくこのことは日々の支援と同時に支援費収入にも大きな影響を及ぼした。

その他地域住民はもちろんのこと全国各地から問い合わせをいただいた見学者の受け入れについては利用者の健康を優先し長期にわたり自粛した。また国内はもちろん海外での多くの展覧会についても中止となり活動や収入においては多大な影響を受けた。

開設 2 年が経過したアートセンターとカフェにおいては利用者にとって快適で個々のニーズに応じた環境設定が可能となり、新たな表現活動（パフォーマンス等）や幅広く余暇活動の取り組みも可能となったが今だ当初の計画は凍結のままである。

一方、テレビをはじめとした新聞、ラジオ、雑誌等においては今年度も多数取り上げられる等、福祉関係者のみならず国内外からの評価は高く、新たなネットワークの広がりから、企業や行政とのコラボなど芸術を軸とした新たな仕事の開拓や事業へと繋がった。

地域においては多様で幅広い世代間との貴重なコミュニティーの場となるよう今後も様々な団体や個人との交流を通じて障害者への理解を深めたい。

2) 施設財政

令和 3 年度においては年度当初利用者数 3 名の増加に伴い、事業活動収入合計が昨年の 167,643,675 円より増加する想定をしていたものの結果として 159,930,786 円となり、昨年度と比較すると 7,712,889 円の減収となった。このことはコロナウイルスによる欠勤者が相次ぎ支援費収入への影響が大きく響いた結果と言える。一方、支出においては対外的な事業も少なく昨年より減少傾向ではあるが福祉医療機構への建設費用の返済やゆとりあ新事業等があり大幅な変動は少ない。

具体的にやまなみ工房においては大規模な施設内整備や機器整備等を行わず、また展覧会やイベント開催などへの出費も最小限に抑え、昨年と比較し事務費については 15,819,733 円（昨年 19,647,470 円、一昨年 22,790,538 円）と減になっている。次年度以降も見通しは立たず例年に比べると引き続き自粛傾向の状況ではあるが、今後、カフェ運営やイベント開催等新たな事業と合わせ、これまで継続して開催している PR-y との共同事業等様々な企画については社会情勢に応じ、可能な範囲で引き続き積極的に行い、今後も同様の支出を計画的に必要な経費として考えたい。

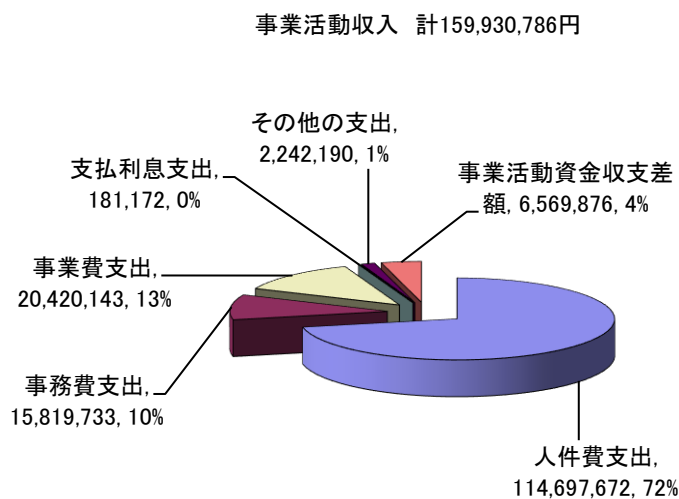
人件費においては今年度 114,697,672 円（昨年 112,187,909 円）となった。主な内訳は定期昇給と非常勤職員の 1 名加配による増であり、全体収益に対する比率は 72%（昨年 67%）となったが全体収入の減が全体比率にも影響を及ぼしている結果と言える。更に次年度より当面は定員拡大による全体収益減に伴う経営悪化が予想されるが、長期欠勤者の通所再

開や新規利用者の受け入れを行い、以降においても、職員には働き方改革の推進とともに安定した処遇を保証し同時に経営面においては人件費の比率を70%に収めたい。

図1) 福祉事業活動による収支

科目	30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
人件費支出	105,640,813円	111,015,789円	112,187,909円	114,697,672円
事務費支出	18,569,496円	22,790,538円	19,647,470円	15,819,733円
事業費支出	18,575,227円	20,121,112円	24,469,934円	20,420,143円
支払利息支出	185円	145,753円	161,405円	181,172円
その他の支出	1,808,792円	2,030,735円	2,004,252円	2,242,190円
事業活動収入計	156,197,293円	163,850,380円	167,643,675円	159,930,786円
事業活動資金収支差額	11,602,780円	7,747,530円	9,172,705円	6,569,876円

図1) 福祉的事業支出の内訳と比率



■人件費支出 ■事務費支出 □事業費支出 □支払利息支出 ■その他の支出 ■事業活動資金収支差額

3) 利用者状況

令和3年3月31日現在、利用契約者数は89名（昨年85名）となり就労B型・定員20名に32名、生活介護・定員40名に57名が在籍し、それぞれにニーズに応じた支援を行っている。引き続きコロナウイルスの影響で県外の利用者や感染を恐れ一部の利用者が出勤を控える等例年のない状況が続くなど、施設としてもご家庭において自主的に一定期間自宅待機のご協力を要請し在宅支援を行った期間もあった。ただコロナの影響以外においては長期欠勤者4名を除き個々の通所においては安定し、1年間の開所日数は243日（昨年247）となり年間を通した定員に対する平均利用者数は、生活介護昨年同様117.8%、就労B型114.5%（昨年120%）となっている。在籍者も増え、毎年定員数を超える利用率が保たれている。コロナウイルス感染予防の為に自主的に出勤を控える利用者に対しては、日々の電話による面談等に対し出勤扱いになるなど一部補助金が適用され大幅な支援費収入減には至っていない。年間を通して一日あたり生活介護に47人（昨年47人）、就労継続支援B型に23人（昨年24人）、合計70人（昨年71.1人）が一日平均通所している事となり昨年、一昨年の出勤率と大幅な増減はないが、毎年利用者人数が増えているにもかかわらず出勤者数がここ3年変化がないことに対し今後の課題として更に出勤率を上げる対策を講じなければならない。

やまなみ工房の利用者の障害程度区分においては、区分1が1名（昨年3名）、区分2が5名（昨年10名）、区分3が15名（昨年13名）、区分4が21名（昨年22名）、区分5が24名（昨年21名）、区分6が10名（昨年12名）、区分なし13名（昨年7名）の計89名（昨年88名）となり区分なしの13人を除けば平均程度区分は4.4（昨年区分4）となり年々重度判定の利用者が増となり強度行動障害等支援度も高くマンツーマン対応が必要になるなど支援度が上がっている。

一方年代比率は10代3名（昨年6名）、20代39名（昨年34名）、30代17名（昨年21名）、40代18名（昨年15名）、50代8名（昨年8名）、60代3名（昨年3名）、70歳以上1名（昨年1名）となり平均年齢は34歳（昨年34歳）である。

男女比率は男性53名、女性36名、利用者は比較的若年齢で概ね健康的である。しかし近年、保護者の高齢化、また障害の重度化に伴い生活の拠点を入所施設に移行を検討せざるを得ない利用者や、早急にグループホームに入所を希望するという利用者が複数待機している状況である。今後も保護者の高齢化等、家族の見守りにおける家庭内での生活がさらに困難な状況が心配される利用者が推定で全体の20%程度いるため、利用者のみならず家族を対象にした包括的な対応はもちろん生活の拠点を確保しなければ継続した通所が困難になるケースが想定される。

地域別で見ると甲賀市からは60名が通所し（甲南23名、甲賀13名、水口16名、土山4名、信楽4名）、湖南市から12名、草津市から3名、大津市から4名、栗東市から1名、三重県より6名、その他、他府県より3名となっている。

個々の支援の内容についてはモニタリングによる支援計画を作成し年 2 回の面談を全ての利用者、家族と行いニーズの確認を行った。その他日々の連絡帳での確認や健康チェック等行うほか、必要に応じた調整会議等適時行った。

特にコロナウイルスに関する情報提供や施設方針を電話や家庭通信でその都度明確に伝え常時検温や家族を含めた健康状態について徹底して情報収集と感染予防を行った。

今後も更なる支援サービスが必要に応じて受けられるよう慎重に対応し介護者を含め利用者一人ひとりが生きがいをもって健康且つ安全で安心できる豊かな日常が送れるよう徹底し、家庭との連携や疎通をより密接に行うこととする。また、利用者や家族の権利を正しく保障するため苦情解決委員会の存在や利用に係る要綱を全ての利用者に広く周知を進め、どんな些細な事においても意見が出しやすいよう配慮し連携を深めたい。

図 2) 生活介護 出勤率 年間平均 117.8% 1 日平均 47.1 人

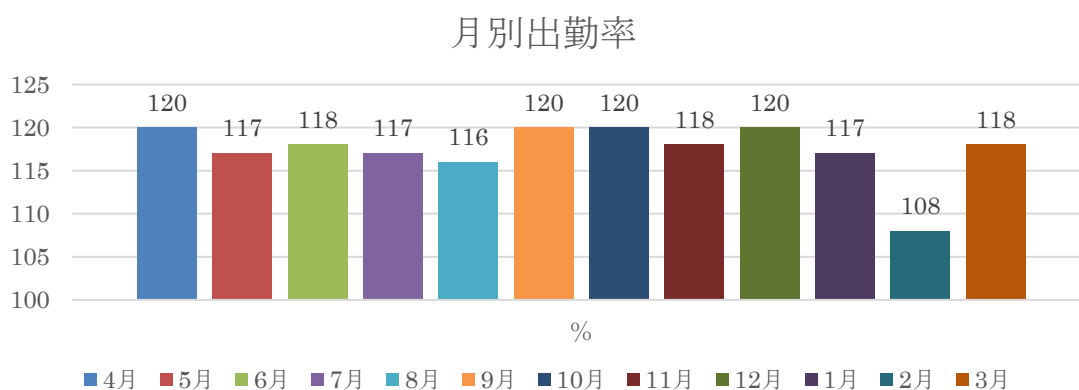


図 3) 就労継続 B 型 出勤率 年間平均 114% 1 日平均 22.9 人

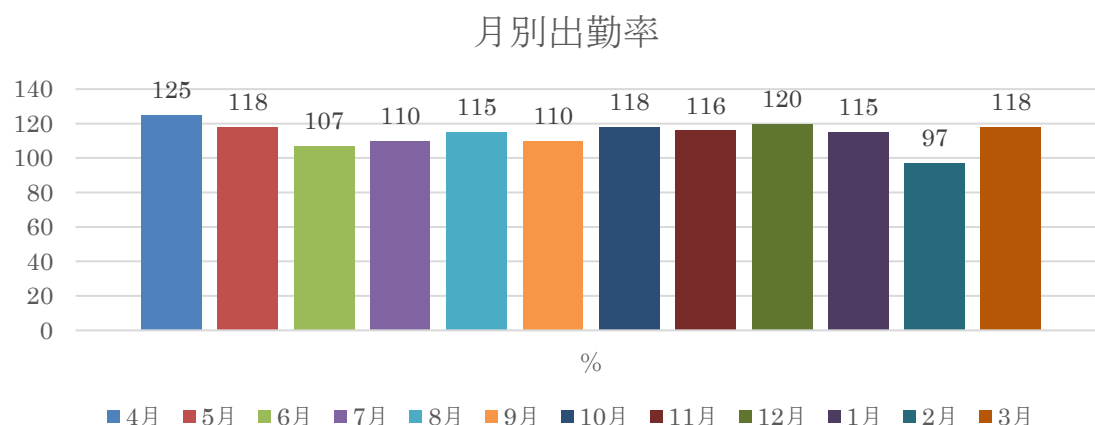


图 4) 年代別・利用者比率 (平均年齢 34 歳)

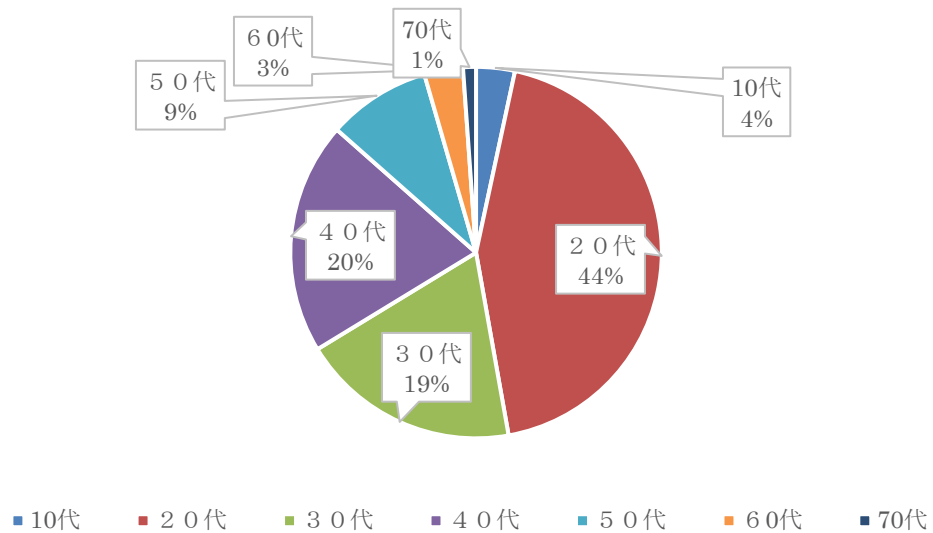


图 5) 男女別・利用者比率

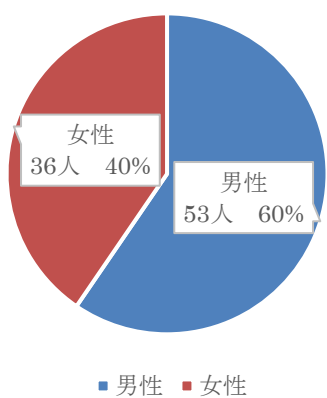


图 6) 地域別利用者

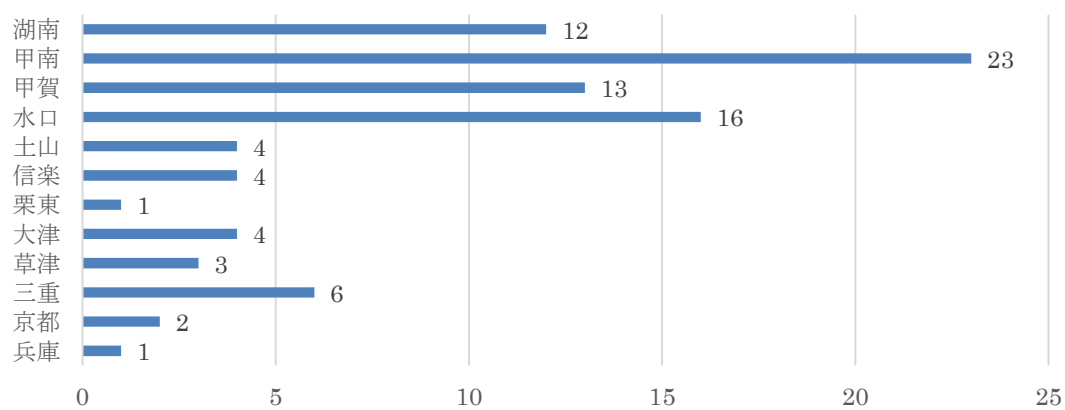
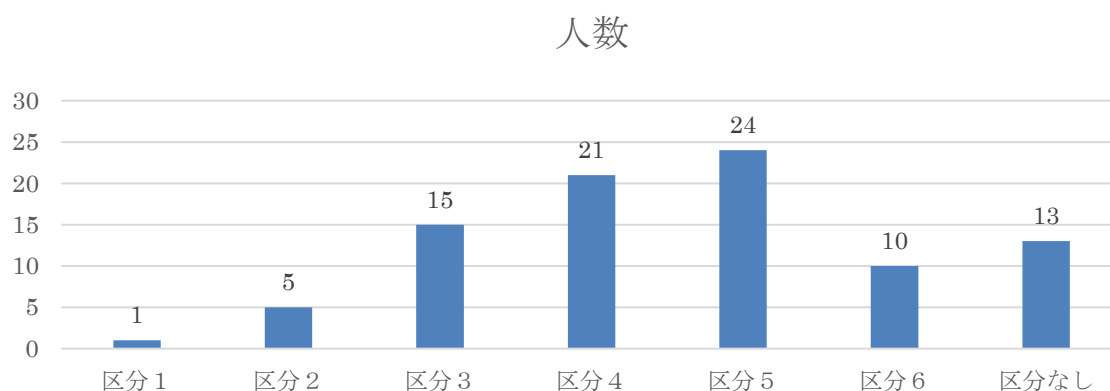


図 7) 利用者障害者支援区分 平均区分 4.4



4) 授産活動

昨年までは対外的な事業が各地で積極的に開催され大幅な収益増に繋がった。しかし今年度はコロナの影響により特に T シャツ販売や独自のグッズ制作販売、自動販売機事業以外は軒並み減額となり、見学料や LIVE 事業においても見通しがつかない状況が続いている。しかし展覧会や作品販売による収益は 12,922,611 円と例年同様の収益はあったものの、今年度収益 27,613,800 円は昨年と比較しある一定安定はしているものの大幅な増収には至っていない。(令和 2 年 22,730,601 円、令和元年 17,178,164 円、平成 29 年 18,724,046 円、平成 28 年 10,401,336 円、平成 27 年 8,739,457 円、平成 26 年 9,813,567 円、平成 25 年 8,000,704 円)

本来、アートセンター開設 2 年目に伴う見学者の増、カフェによる収益増、社会においてある一定定着した LIVE 事業等により、当初の計画では利用者の工賃倍増に向け大幅な収益増を見込んでいた。しかしコロナウイルスの影響を受け、その多くは当初の目標設定を下回ることとなり、特に一昨年 3,000 人あった見学者の受け入れは 200 人にも満たず激減し、そのことによりカフェ営業やグッズ販売等にも影響を及ぼした。また LIVE 事業においても一度も開催が出来ず昨年 100 万を超える収益は 0 円となった。その他利用者の外出等による人との接触や車中での密を避けるため古紙回収事業については縮小した。

カフェについては時期によっては見学者以外の一般利用も多くあり、年間を通して 2,451,710 円 (昨年 3,099,931 円) の売り上げがあった。次年度以降一年を通し安定した営業が出来ればまだまだ収益は伸びる見込みもあるが、施設内感染を防ぐため今後も予防を徹底する状況が続く。

一方昨年から引き続き甲賀市からの受託事業として 2 つの事業収益があり他事業の減収を補填することとなった。次年度も同様の事業収入は見込め収益以外においても市民に対する理解の深まりは貴重な財産である。

今後、コロナウイルスの影響も想定し引き続き一定収益を見込める新たな独自事業を検討し工賃向上に繋げたい。

今後、積極的な展覧会の開催、また新たなグッズ制作による販売促進やレンタルアート、自動販売機事業の拡大など利用者の安全を確保するとともに効率的に安定した収益増を目指すとともに LIVE 事業等による地域交流事業や見学の受け入れについても状況を見て再開し、利用者の工賃向上につなげたい。

結果的に年間 27,613,800 円の収入に対し支出の総額は 26,429,466 円（昨年 16,799,396 円）となった。主な支出は利用者の工賃や原材料費等による諸経費であり、支出が大幅に増額になっているのは作品販売に伴う著作権料等の増額や書籍（写真集）増刷や発刊に伴う印刷費等によるものである。このことにより今年度の当期繰越金額は 1,184,334 円（昨年 6,758,268 円）となる。現在授産収益の繰り越しは累計で 28,385,934 円となり内、工賃変動積立金は 5,068,421 円となる。このことから来年度利用者の賞与や工賃向上、並びに授産事業拡大に向けた授産機器整備等のため計画的用途を明確にしたい。

●令和 3 年授産収入一覧

項目	令和元年度収入	令和 2 年度収入	令和 3 年度収入
作品販売、展覧会等	13,889,077 円	12,293,192 円	12,922,611 円
古紙回収、キャップ回収	628,292 円	340,923 円	242,160 円
メンテナンス	619,280 円	1,172,354 円	752,339 円
自動販売機	688,051 円	696,994 円	907,194 円
仏花・洗車	202,120 円	168,400 円	0 円
カフェ	907,937 円	3,099,931 円	2,451,710 円
見学料（4～11 月）	728,350 円	260,774 円	116,500 円
T シャツ、トートバック	1,629,000 円	1,354,602 円	2,482,601 円
LIVE 事業	1,235,848 円	0 円	0 円
ガチャガチャ	92,400 円	22,800 円	128,620 円
グッズ/ショップ	1,489,486 円	1,231,309 円	1,035,736 円
ATM 清掃/LINE スタンプ	192,354 円	17,815 円	16,280 円
物資	379,500 円	415,570 円	604,980 円
その他	48,906 円	2,483,000 円	5,953,069 円
合計	22,730,601 円	23,557,664 円	27,613,800 円

5) 利用者工賃

利用者の工賃においては例年同様、それぞれ生活介護及び就労継続支援 B 型の事業別に策定したやまなみ工房給与規程に基づき支給した。現在の月給工賃平均支給額は一人当たり生活介護が 5,706 円、B 型が 6,120 円、全体平均については 5,855 円（昨年 5,044 円、一昨年 4,736 円）となり過去 5 年を経て一人当たりの月給が約 1,500 円昇給したが十分ではなく今後最低でも全国平均（B 型 13,000 円程度）は月額保証し、生活介護においても現在の 2 倍の工賃保証を最低でも保証したい。尚、平均額については併用利用や長期欠勤者等日割り支給の方は除いた金額である（2020 年 6 月時）。

尚、利用者には夏冬賞与（夏 5,000 円、冬 10,000 円）と合わせ今年度も 3 月に年度末手当として一人 12,000 円を支給した。

引き続き作家別著作権料については毎年契約更新をしている著作権規定に基づき支給した。内訳については現在他団体から個人に支払われる作品売り上げや出展謝金及び作品の使用料収入の 70%を月給と別途本人支給し、工賃の支給額最高は 3,931,450 円（昨年 1,589,600 円）となっている。また今年度は工賃年収合計（著作権込み）、5 万円未満が 12 人（併用利用や長期欠勤者等）、5 万円以上が 18 人（昨年 26 人）、10 万円以上の利用者は 39 人（昨年 38 人）、20 万円以上が 19 人（昨年 12 人）、50 万円以上が 2 人（昨年 1 人）、100 万円以上が 1 人（昨年 1 人）、200 万円以上は 1 人（昨年 0 人）となった。

来年度においても利用者の日常のペースに配慮しながら、状況に応じた様々な活動を展開する他、新たな事業を検討し更に収益を上げ、利用者の工賃倍増を目標に取り組みたい。

6) 施設の充実について

今年度は主にコロナ感染予防対策を講じるためのパーティション等備品の購入を中心に、利用者用の PC の購入、職員用の PC のバージョンアップをはじめ各班の作業室についても必要備品の充実を図り、個々のニーズに更に対応できるよう改善した。

引き続き室内外については徹底した清掃作業を行い不要なものの撤去、また安全と衛生面において常に環境整備に努め、利用者が安心安全の中、快適に活動が出来るよう充実に努めたい。

7) 社会参加・地域交流事業

一昨年はギャラリーや LIVE 事業を中心に地域をはじめ国内外からの見学者は 3,000 人を超えた。しかし昨年度、及び今年度においてはコロナウイルスの影響を受け 162 名（昨

年 250 人) まで激減し、LIVE 事業やワークショップ、映画上映会等も引き続き開催が出来なかった。

これまでギャラリー見学やカフェ利用と共に施設内を見学し、利用者と交流を持つなどやまなみ工房や障害者福祉に対する理解を大きく深めることへと繋がっていたが今年度については利用者への感染予防を更に強化し徹底したため全て自粛した。

その他やまなみ会通信(年 4 回、郵送 4,500 部(関係団体・個人)、甲南町自治会回覧版)の発行は内容を充実させ好評を得ている。今年も新聞、雑誌、テレビの取材や WEB マガジン等をはじめとした掲載や様々な団体や行政の機関紙等で利用者の活動が多く取り上げられたことは地域や関係者のみならず全国的に理解へと繋がっている。

引き続きメンテナンス事業は重要な活動として継続するが、古紙回収事業やペットボトルリサイクル事業等利用者による授産活動については地域に定着しているものの年度内に一部縮小や業務の停止を行った。今後、利用者により適した活動内容を検討したい。

また教育関係者や行政をはじめとした各種団体、全国の福祉関係者によるセミナーや映画上映会の開催等においては今年度も多くが中止となった。国内外において開催される様々な展覧会やイベントはやまなみ工房の実践が発表される貴重な機会となる他、作品やグッズ販売をはじめ注目も高く今後の社会情勢に応じ予防策を徹底しながら積極的に取り組みたい。甲賀市から委託を受けた 2 つの事業については地域住民をはじめとした多くの方々との貴重な交流の場となった。

図 11) 令和 3 年展覧会開催報告

展覧会 2021 年度

展覧会名	開催場所	期日	出展作家
「ART FOR SDGs 多様性への道」展	北九州市立美術館(福岡県)	2021.4.29-7.11	井上優
第 3 回日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 公募展	障害者スポーツ文化センター(横浜)	2021.4.21-4.26	池上、岩瀬、岡元、勝間、田中の、三井、吉田ふ
OutsiderArtSuper-Rough	ニューヨーク (アメリカ)	2021.6.9-6.27	鎌江、吉川、河合
西陣 connect 展	京都ブライトンホテル (京都)	2021.6.8-7.30	中尾涼 衣類のみ
「Our Life is Our Art そしてその先へ 「THE WORLD」	GYRE GALLERY (東京都)	2021.6.7-7.25	中尾涼、井上
京都工芸繊維大 ちりめん展覧会	名古屋 Fab cate Nagoya (名古屋)	2021.7.20-8.2	北村は、川邊
DISTORTION3 2022SS	大阪北浜 Visions Lev (ヴィジョンズ レフ) コロナのため中止	2021.9.11-9.12	中尾、大路、中川も、北村は、西本、吉田ひ、井上
北陸工芸の祭典 GO FOR KOGEI	北陸 3 県 6 会場	2021.8.29-11.15	田中の、山際
「BIRTH GALLERY」	BIRTH DINING by plein (東京都)	大家展: 10/5-10/30 岡元展: 11/2-11/27 中尾展: 12/1-12/18	大家、岡元、中尾り
HERAL BONY GALERY 岩瀬俊一展	HERAL BONY GALERY(岩手)	2021.8.7-9.12	岩瀬俊一
THIS IS YAMANAMI! 一毎日をつくる、やまなみ工房の人々	文化フォーラム春日井・ギャラリー (愛知)	2021.11.27-12.19	清水、西橋、岡元、井村、鎌江、河合、山際、川邊、竹中、田村、井上、井野、岩瀬、鶴飼ゆ、榎本あ、大路、大原、大家、小川、上

			土橋、神山み、木村、熊田、酒井、城谷、竹口、宮下、三井、田中む、田中の、中川も、池上、富士川、山崎、横井、吉田ふ、吉川、吉田り
「この時代をアートで元気に街とふれあい Sabae 彩りアート展覧会」	鯖江 SCC (福井県)	2021.10.17-10.31	神山み、田村、井野、岩瀬、川邊
龍谷大学 展覧会、ワークショップ	龍谷大学深草キャンパス 図書館 (滋賀県)	2021.11.10-12.8	宮下、中尾り、中川も、上土橋
D&DEPARTMENT	「湖のスコール」ギャラリー2F (滋賀県 長浜)	2021.12.10-2022.3.13	第一回 榎本高士
アールブリュット作品制作業務委託 「忍美神髓～公開の精霊たち～」	甲賀流リアル忍者館 (滋賀県)	2022.2.5-3.31	吉田ふ、栗田、川邊、池上、岩瀬、田村、岡元
アールブリュットによる豊かな心づくり応援事業 甲賀市委託事業	滋賀県甲賀市甲賀町 櫛野寺	2021.11.3-11.28	池ノ内、井上、井村、岩瀬、大原、岡元、鎌江、河合、北村、神山美、清水、田中乃、森、森田、山際、山本、吉川
ふらっと美の間	塩野温泉	2021.11-	山際、大原
Aboutme5	IMAGINE & DESIGN (イマジニアデザイン) 大阪	2021.12.16-12.20	上土橋、吉田ふ、中井
関係するアート展～心が震えるほど感動したことはありませんか～	佐賀県立博物館 3号展示室 (佐賀県)	2021.12.4-2022.1.23	吉川、田中の、吉田り、森田、中尾り、中川も
2021 軀の津ミュージアム企画展 きょうの雑貨	軀の津ミュージアム(広島 福山)	2021.11.13-2022.3.6	山際、大原
特別展「やまなみ×おとさぼアールブリュット展 Quintett!」	教育学部音楽棟内 大津市	2021.11.17-2022.1.31	川邊、田村、森、中川も、服部
NAKANO 街中まるごと美術館!	東京都中野区中野	2022.1.22-2.23	岩瀬、岡元、田村
人間の才能 生み出すことと生きること	滋賀県立美術館 展示室3	2022.1.22-3.27	井村、鶴飼、上土橋
「BIRTH GALLERY」	銀座ギャラリー	2021.12-1.23	中尾り
(株)nadeshico 「おさけところも」展	長浜市元町「おさけところも」	2022.1.15-3.25	中川も、中尾り、田村
やまなみ工房展覧会	甲南第一小学校	2022.1.12-1.19	岩瀬、森田、神山み、大路、山際、鎌江、鶴飼ゆ、瀧口、竹口、竹中、酒井
福祉とまちのやきものづくりと文化芸術	信楽伝統産業会館 展示室	2022.1.8-1.25	井上、鶴飼ひ、藤原、横井
特別展 「川内倫子とやまなみ工房の風景」展	東大阪市民美術センター 第1・2・3 展示室	2022.2.11-3.13	井上、鶴飼ゆ、榎本た、岡元、河合、川邊、鎌江、木村、栗田、神山美、酒井、瀬古、田中乃、中川も、藤木、宮下、山際、吉川、吉田楓、吉田陸
作家を作るものたち	ART TRACE GALLERY	2022.1.24-2.8	大原、山際
American Folk Art Museum 設立60周年記念	AmericanFolkArtMuseum (アメリカ)	2022.1.22-9.5	鶴飼ゆ

1、公募展

「第4回日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 公募展」

佳作／小川、榎本あ

2、エイブルアート・カンパニー

現在3名(三井啓吾、川邊紘子、神山亜津美) 登録作家

川邊紘子 内田洋行さんのカレンダー 2月 魚の絵
トヨタ自動車株式会社 ポスター
株式会社 longs、タビオ株式会社 靴下、ボクサーパンツ 復刻
トヨタ自動車 (描きおろし完了)結果待ち

神山亜津美 トヨタ自動車株式会社 ポスター
株式会社 SL Creations 商品パッケージ (描きおろし完了)結果待ち

3、＜その他特筆すべき事柄＞

◆テレビ・ラジオ関係

- ・ 4月17日 森山直太朗など【no art no life ～令和3年 表現者の幻想曲】
- ・ 3月30日 ビートたけし 国分太一 【レベチな人見つけた】初回放送
- ・【TOKYO FM】 ・6月28日週／鵜飼結・7月5日週／勝間・7月12日／西出か

◆映像関係

- ・ 3月31日 アールブリュットネットワークフォーラム2021セッション1 保坂氏
- ・ 港区バーチャル・美術展の動画が公開 岡元 鵜飼 竹中

◆記事

- ・ 3月25日 DIVER CITY IN THE ARTS アートセンターについて紹介
- ・『目の見えない白鳥さんとアートを見に行く』 / 酒井
「はじまりの美術館」で展示された酒井美穂子さんの作品紹介
- ・ 読売新聞の紙面やウェブで障害者の芸術活動
- ・「no art, no life ～令和三年 表現者たちの幻想曲～」
映文連アワード2021 ソーシャル・コミュニケーション部門の優秀賞を受賞
- ・ DIVERSITY I N THE ARTS PAPER 10号発送 鎌江
- ・ 読売新聞 記事「安心の設計」面というコーナー 大原、田中む、上土橋、城谷、山際
- ・ 甲賀フリモ
- ・ ぷらら記事 読売新聞、京都新聞
- ・ 信楽展 鵜飼ひ作品掲載

◆デザイン使用

- ・ DEBESS0 PC デザイン使用 / 三井、岩瀬、中尾、大家、池上、山崎、斎藤
- ・ ヘラルボニー 帽子メーカー八百吉様からの依頼 / 田村
- ・ ヘラルボニー クリアファイル使用 / 山崎菜那 井野友貴
- ・ DIS3 井上、大路、吉田ひ、北村は、西本、中尾り、中川も
- ・ TRUNK ホテル TINY BLUE TRUCK 2020 青い軽トラ 岡元
- ・ The Quarto Group 作家紹介 竹中
- ・ 豊田合成 エアバック NANA、岩瀬、中尾、神山あ、田村
- ・ 楯の川酒造 / 神山あ、田村、大路、中尾、池ノ内

- ・共生シンフォニー エレベーター 三井、大家
- ・小学校で使用する図工の教科書のデザイン
- ・清春様ガイア・シングルパッケージの作品使用 中川ももこ
- ・忍者マスク 栗田、池上、田村
- ・TRUNK ホテル 上土橋
- ・音楽レーベル デジタルジャケット使用 關、田村

◆収蔵

- ・ポルトガル Treger/Saint Silvestre Collection 二人の男性がはじめた
アール・ブリュット、アウトサイダー・アート専門のコレクション 小川、山崎

◆その他

- ・Communication through Art: A Perspective of the Embodiment 見学内容の図書掲載
- ・2021年11月～2022年1月 オーストリア・ザルツブルグにある現代美術のギャラリーで、ハナ・リエガの企画で展覧会開催。パリのクリスチャン・ベルストから作品を借りて、中川の絵を3点展示。紹介チラシに中川の作品が掲載

◆芸能人着用

- ・2021. 12. 12 沖縄 SKY FES キックザカンクルー 吉田ひより
- ・2021.12 オダギリジョー WinTicket CM 吉田ひより シャツパンツ
- ・2021.12 カナダ雑誌 21SS の中川ももこ数字の洋服。 モデル俳優の濱尾ノリタカ氏
- ・2022.1 「TV ガイド Alpha」 Kis-My-Ft2 北山宏光 北村はジャケット
- ・2022.2 「にほんごであそぼ」千晴氏 吉田ひより
- ・2022.2 「KREVA×KICK THE CAN CREW」北村はるか
- ・2022.2 SixTONES FASHION プロモーションビデオ 高地優吾

8) 関係団体との連携

利用者が日常安心して適切なサービスが受けられるよう、個々のケースに応じて医療機関や相談センター、行政及び福祉施設とその都度連携を図り課題解決に繋げた。特にコロナウイルスの感染対策については滋賀県、甲賀市、甲賀保健所等との連携を密にし、全職員の定期的な抗原検査、並びに利用者を含めPCR検査（計11回、延422人）を徹底するなど常に健康状態を把握し感染予防に徹するとともに従来通りの支援の保障を行った。しかしやまなみ工房で発生した二度のクラスターは累計23名が罹患されるという結果を招き、関係機関や他の福祉サービス利用についても一部自粛するなど大きく影響を及ぼした。

年度内においては感染対策を徹底し、計画相談や関係機関による個別支援会議の対応等随時行ったが感染拡大を防ぐため他機関の受け入れにも制限があり家庭や本人の要望に十分応えきれず対応することが難しい場合も多くあった。

日中支援のみならず、利用者の家族を含めた包括的な支援や、生活の保障、権利擁護事業

や後見人制度の活用についても必要に応じ行ってきた。今年度ご家族の死去に伴い自宅やグループホームで一人暮らしを余儀なくされた利用者が 2 名、現在後見人制度を利用している利用者は約 5 名程度に留まっているが引き続き家庭の状況や必要性に応じ対応したい。

今年度においてはオンラインを活用し虐待防止法を中心に研修会に参加し、日常の実践への意識を高めるようにした。施設内においても引き続き施設事故・虐待予防対策委員会を開催し、全職員にヒヤリハットの提出を月一回以上義務付け定例会議を行うようにし、各種マニュアルや報告書もより細部の事案に対応できるよう徹底している。(ヒヤリハット件数 197 件、昨年 142 件)

体制上圏域のサービス調整会議や各種団体の会議には参加が今年度も難しく、またコロナウイルスの影響で中止になるなど積極的な関わりは困難であったため他団体の会議等には出席できない事が多かった。

第三者委員会への申し立て等については今年度も事例がなかった。今後もそうしたことが起こらぬよう利用者と家族の尊厳を何より保障する。

尚、4 月 1 日に全家庭に対し、苦情申し立て及び第三者委員会の概要説明、利用者の著作権及び著作人格権等の意思確認、緊急連絡先の確認、保険説明を例年同様行った。第三者委員には年に一度訪問いただきヒヤリハットの確認や状況説明及び見学案内を行った。

日頃より家庭に対して、各班ニュースやその都度行ってきた事業等の報告は書面をもって積極的に行っている。

やまなみ工房保護者会あらため家族会には、各種イベント参加は開催できず一同に会する機会はなかったが、物資販売等の協力を得た。今後ご家族の負担が少しでも軽減できるよう引き続き検討したい。(家族会総会については書面決議。)

9) 福祉事業サービス

例年同様、通院同行や家庭訪問、電話相談他、朝夕の時間外支援、移動支援など家庭からの要望はもちろん必要性に応じて、その都度体制を整え家庭援助を行ってきた。また家庭訪問による PCR 検査等や工房内においてワクチンの集団接種の機会を持つなど独自の支援を行った。

また計画相談担当者を中心に調整会議の開催やニーズに応じた各種サービスが迅速に受けられるよう対応してきた。時間外受け入れについては緊急時を原則に可能な限り対応するが頻度も増幅し受け入れが困難な場合も起こり得る為、その都度慎重に対応したい。

今後も利用者や保護者と連絡を密にし、コロナウイルス等感染症対策をはじめ体調管理や生活基盤について細心の注意を払い、日常安定した生活が送れるよう配慮する。また家庭訪問や連絡帳を通じて細心の注意を払い、施設長、副施設長、主任を中心に個別に適切な対応を行う。

月 2 回の職員会議と合わせ、非常勤職員を含めた月一回の職員全体会議において個別ケースや緊急事例に関して対策を講じ全体で疎通をはかってきた。

年間の支援計画については 6 月に個別の保護者面談を行い、活動方針の説明や各家庭のニーズ、個々のアセスメント、フェイスシートを作成し日常の支援に効率よく活かすことが出来た。モニタリングは年二回行い、支援計画等の見直しを行っている。

給食サービスについては、衛生面の徹底的な管理の向上を常に念頭に置き調理を行った。一人ひとりの障害や、健康状態に配慮する中、楽しく美味しく食すことを原則に食事を提供し、利用者にとっては健康を維持し日々の活力となり得る重要な役割を果たしている。衛生面においても徹底管理し今後も安心安全に留意し行う。

送迎サービスについては送迎対応マニュアルを策定し安全について徹底した強化を引き続き行った。また交通安全委員を配備し、より一層安全面を徹底している。今後も各家庭の様々な事情に最大限対応していきたい。(車両事故等については送迎中の物損事故 2 件、接触事故被害 1 件で両施設合わせて 3 件が発生したが大事には至らなかった。)

コロナ感染予防の為一時中止とした月はあったが、次年度においても月一回(3月・4月を除く)の土曜出勤については原則継続して行う。

健康診断(年二回)や集団歯科検診、インフルエンザ予防接種等、利用者が健康で過ごせるよう配慮を行った。有料での散髪サービスは今後も継続し家庭支援へと繋げたい。

10) 今後の課題と事業展開

やまなみ工房は現在、甲賀市湖南市を中心とした甲賀圏域の障害者通所施設では最も利用者数は多く、定員 60 名に対し 89 名(令和 3 年 3 月 31 日現在)が在籍し、今後も利用希望者のニーズは高まる傾向にある。令和 4 年 4 月には新たに 2 名(甲賀市 2 名)の希望があり、また 3 月 31 日付で高齢に伴う退所者 1 名を予定している。

今後も甲賀圏域に関わらず広範囲より入所希望の要望は続くと予想される。特に令和 5 年は圏域の三雲養護学校だけでも 3 名の希望者が入所を希望し実習を予定している他、各関係機関においても年度内に途中入所を希望する事例が予想されるため、令和 4 年 4 月 1 日からは正式に定員 80 名(生活介護 55 名、B 型 25 名)とする。引き続き現在利用されている利用者への支援の質を低下させることのないよう体制強化を行いながら出来る限り地域課題とニーズに応えたい。

環境整備においてはアートセンター増築に伴い、一人当たりの有効面積や機能が大幅に改善された。引き続きその機能を最大限生かし利用者の工賃向上に向けた就労保障を充実させる。

今後も利用者一人ひとりの意思及び人格を尊重し、安心できる時間と空間、そして幸せを保障し、明るく・温かく・楽しく快適に生活ができるように創意工夫を凝らしながら、豊か

な人間性溢れる支援を行えるよう物的にも人的にも柔軟に対応し更なる強化に努めたい。

またやまなみ工場の取り組みを引き続き様々な媒体を使い幅広く周知し障害者に対する支援や理解が深まるよう一層努力したい。

どんなに障害が重くても、労働を通じて社会に参加し、生きがいと誇りをもって心身ともにゆたかな暮らしを送れるよう、一人ひとりの利用者やその家族のニーズに対し適切な支援を行い安心して地域で日常生活が送れる事を目指し日々運営を行い、更なる支援強化に努めたい。